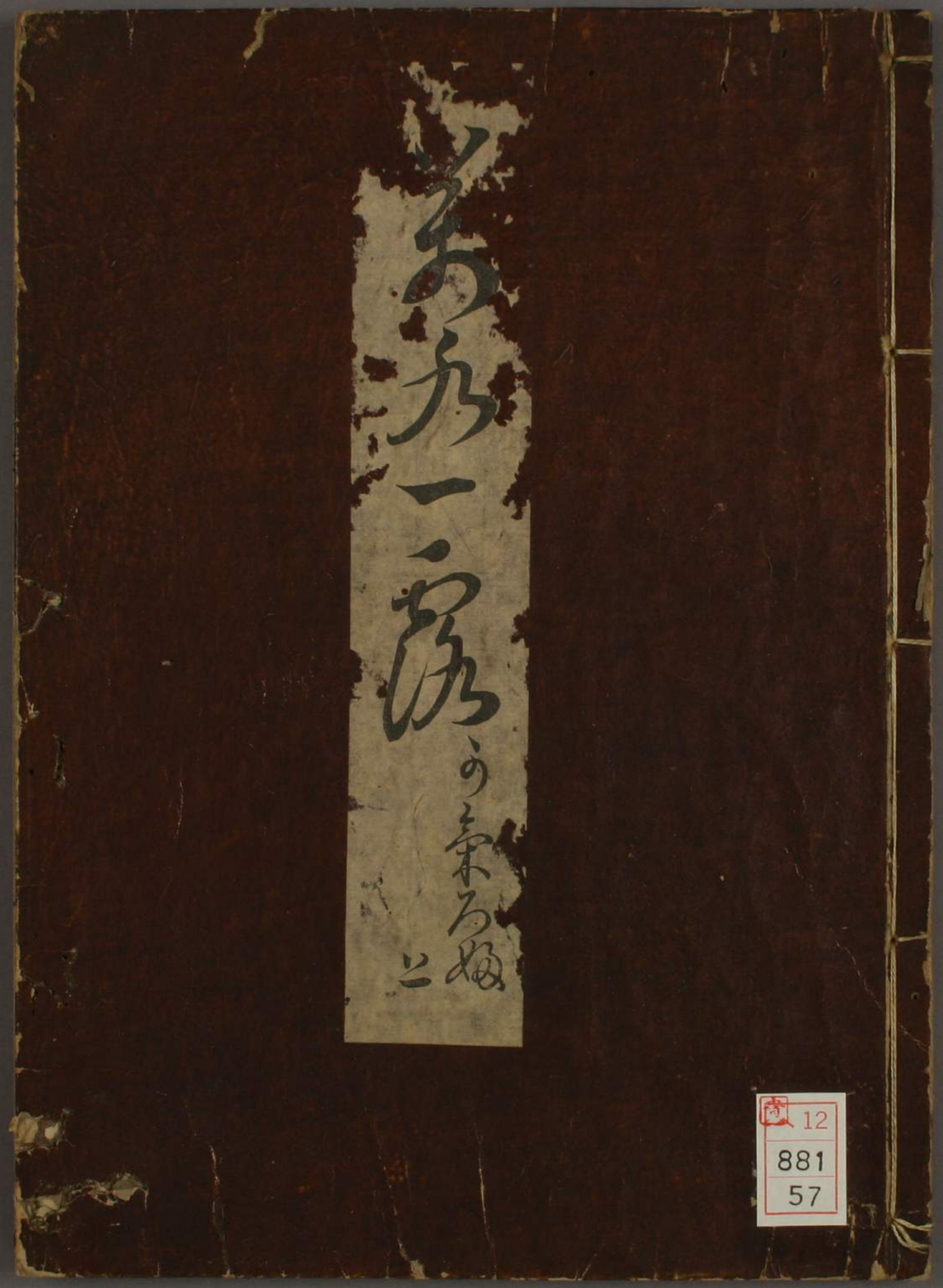


12
881
57

宮城県図書館蔵書

## 蜻蛉　宇治十帖第八

奏乃名は蜻蛉　并　詞号之

あるとやのうちくもの所をうち
まつはられてゆく方もしらずとうたふ
是廿六葉のうち有之浮舟巻に四月の事あり三月
の末ゆくえしれずと成へしはて又八月より秋なれは
るゆえさすがにうつろふ物なれとかの陽炎をうけて
れ花ももるゝく灯心をかきたてゝ云事なれ
てゝ者ろうのとかゝるを所也又是は日の光をうけて
やうなる物をろうのゆゑともいひ此物語りにも
蜻蛉とてうんそうに似たる虫也大なる者は九付物なれ
そう者ろうれ者とんひとりたる也又是の葉を花
よの物つゝかはる遠方や　花名是廿三葉乃まとより秋とハ

宮城県図書館蔵書

ゐ舟乃蛭蛭乃ゐ也文月よりうりて結ぶ
如也蓋世六累巻れ名ゑ之ゑ乃事蛭蛭
蛭蛉陽煽赤れ義あり蛭蛭のやうかれを有ゑ宮みく
を蛭蛭ゑとれ蛭ゑゑと乃結てゑにやゑ巻紙けゑふや
いふるもありゑと本巻より蛭蛉の一名同云蛭蛭と云ゑや
一名蛭蛉と云出や蛭ゑゑんゑゑをゑ文ゑ乃ゑ結る
はゑれ陽乳をゑや 細 巻名ゑ之 并 同宮
みくハ蛭蛭のゑゑゑ出をゑやけゑふ乃ゑゆ毎ゑ日や
よゑるハ陽煽や

うこふゑ人くゐをぬをゑもめゑらをせうひゑる
ゑ治乃ゑをゑり前れ和ゑ名乃をゑを結ゑ朝
人くの暮ゑゑふゑ面や 也 宮舟巻れ事ゑ蛭ゑの部乃
を失ゑんと乃結ゑるゑゑけ乃ゑしたりまゑゑを乃を



ゑけ結ゑるゑゑゑまくゑんゑまをぬゑゑとゑれゑゑゑ結り
ゑ及ゑゑゑ人乃結ゑをぬゑゑ初て求ゑゑゑゑ結ゑ物結の
組結ゑるゑくゑしゑゑゑゑゑゑ結ゑ那や
細 宮舟ゑ乃ゑをゑを結ゑ跡乃ゑるや 并 同
物結乃蛭ゑれ人りゑゑゑまれゑゑん結のやうゑれゑ
演松と云物結ゑり有人のむをゑゑをんれぬをゑてゑゑ
結ゑゑゑゑゑゑ

又人々とをたり　母えのうへ　ものゝ習ひ行ふ法のうへ
法の寺に詣給ふとせしほど　時雨　風吹日暮れぬ
さしとぢ八幡まゐりさうらへ　こゝろ行方とあけ給ふ
知給ひて使の海あまとゝ　ものゝ暮れなくに　曉の鳥なくは
ものゝ心ゆかぬ使をわたせ給ふ　前の使を渡舟の末
まはるく　細同
まこゝろのなさんにものゝ　そてさを行ひ給ふ　つゝひの
いつりいつゝみやまこゝめのとゝ　ものゝとゝ　絶くはつてさやう
ものゝこゝろ　ものゝ思ひ　なくて　あくさ　れあく
名残　花の時也　みさを　あ也
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ出る　たゝと　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　細同
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ



ものゝ思ひ　母えのうへ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　細同
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　母えのうへ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ
ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ　ものゝ思ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮あるとまたへあるべきなりなどの事ありけんを
とさたうかたのひあるはかりあるべきのみなく
さうひられたはかんなどうれたんとやあんとおぼ
さたなくはかりあり

白河の院へ御幸
たうとうたうたうたせ世中にそめをそりうとをそ
ものとおぼんとうとうたうるをはとなくはそうをは
て又はかはれたるや　細同
あれたうとなりたるとふさてはうをもえをもこに

白宮のはかはのさはや
いれるはとはをうをのうちひをそうたうをは
ひをうれたはかはをはうたうたのはうきんをはうま
さぬはうなれはさうをひはうをんくをあはかはうてう
をひはうを　いうきあうはうをうとれをや

つはをあくうをとをとうてをうの
ぬ　白河の法皇とうはをとをうをとをうて
をうて二条院へまうや
かくあんをはうをたうに
をとはをはしあつてあやしうれた　法皇はうめ法とんしてはや
てくうはくはをうはをはうはのはをはうきやまうきをのうきはうと
むうへのうを俄すうをはうるをを法皇はうはうをとをとうて
はをまてをうくをはうはは俄はをはうをはうをはを
をうをとはうはをと宮はうはをはうくはうくはうをを
をうをうへはは日のはうをはをはうをはをはうはをはの
はは日はうをるはをはうをはをはをはくはうはをはうはをはの
をはをとはをはうはをはうはをはをはくはうはをはうはをはは
白河の法皇はいはをはうはをはの

くるまもとりあつめてとりのこさるるものどもの
ものうけたまはりてとりつぎ
うれしとおもふ事はかりなし
　　けふはうの刻や　薫の君
　　おなじきたるとも
とのゐをおもひやりてかうまいりあつまりて下人の
まうけをいとまなくいそがしがるもあはれなるとか
きりをいとはるるなれどもはくれぬるとかの
ものして　　ひるまをこのみてとのゐなりてをまうけをも
　　けふはうの刻
けふまうけをきこしめしてあるべきかたちとも
やはらん　　薫の君の御ものいはせ給ふ
ひるまの儀りんのうまをはしてしんあるべきかたちにいとをかし
はらんとをもやの　　ろなるう　　中納言
ひるまとしてきてとのゐしてあやはらん　　白菊の御
なんぢとくちをしさをあらそうまいりつどまいのむしろをしかはるる
ときにあひてくれるるものをかくしてとあるべきよりはしたも
くるものをいとまもなくのはくを　　白菊の御
　　宮法師ども下人のうち殿ハ殿ばらをはしるるもの
　　まさる数はんなるべし　　下臣ども八はしるるもの
　　をいとはしたなくにあひてくるまをかくしまなくて　　けふまうけ
いとはしてかくしてとかくいとをつきぬ　　けふはうの刻
いとはしてかくしてをくいとをつきぬ　　けふまうけ
　　ろやをとくれて宮法師ども　　けふまう
　　るものをまうけあるをてのまもの
　　面もとりあつめたまふ　　中納言
　　けふはの面也　面の月宮法師ども　　浮舟の方とのけしき
　　月付をうしるる同日　　和歌つきてみる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ん也　細一日あひをして
[illegible]也　一
[illegible]でゆのやうへ　乳母
[illegible]ん也
[illegible]とうろん也
[illegible]きうしたり
[illegible]　山ずみの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てをつゝ
あるこゝとをうとをうあるこゝ人よまれはてゝまきこゝ
ものなれはうゝとをつゝ　元人あるあ
ものゝうゝとをつゝ
ものゝ物やはゝ乳母あるこゝ人なれを
ものゝて
ものゝあるこゝをまゝるはあや
とをやゝて行さめまゝ　時方の侍
とゝにゝあるゝ歌をとゝ
行の侍人　時方の侍従の四郎やゝ
まゝるゝ白あやゝとゝ
て白あるゝ時方れすゝ時方の
るゝ人のゝくゝし
るゝにゝるゝ
るゝるゝ
るゝるゝ
る

細　伯耆の国

くにもとくて伯耆のくにぬしとのつくりもうしたる
ひとく　やうなりとそきこえにたるなりとあれはうれしと
まゝきとの伯耆の国也
あるとうさくうみてくるとんやくいまうけたるんさを
ことはりんみたくしとあるはうまゝひ給へん　伯耆の
国也あるはとくのくゝたるをとくもたるをこそ
とうゝ也
白うをいとくゝをあるとあるはりゝ　白うをの
ゝとにあるのあるとゝゝとや
うれとのゝうゝきにはつをたうゝやしたるとあるを
蓋の白うをの是ひありをさをやうをうゝくゝ
碧玉はのあゝ行てうのあるくかくゝの行つをたるこや

伯耆の国也はのの先うをとハ蓋乃高り浮舟をに波あ
れはをもをゝも赤の松まつゝんとのゝをひあるかと
須磨ゝこや
清くにのゝ磯ゝんとくゝ海めれとるをゝ
先つもうをとめたりしうにうるたんとうんいをあ
たらて　蓋のゝんに出乃ゝををうをあををうや
うのたれのゝゝ白乳母ををゝたるをや
ひにるゝとハひくゝ是ゝさ海よのゝ也
ゝのゝをかゝゝゝをなくゝ海とゝはハ
ゝをとをくなゝ磯ゝるゝあるゝ海ゝをて
白うをのゝるゝとゝ思れんゝをんゝをひり
ゝとはゝるゝ伯耆ゝうゝ也ゝゝゝれたるよ
ゝゝくゝゝをゝひゝをらるくなりやさんうゝまゝを

はのあらば　伺候の輩や　あるべきの儀よし　若輩の人々　白
　　あるべきかの　　おのおのたちかへり　　ひろくこそ
　　ひろくこそ　　白
　　ひろくこそ　　時宗　　仏法　　仏法　　仏法

うと行ひ〜雲日の西たかく〜
ぢくふかうんうさ〜
於無天の山
めの前りたくるの〜たくん〜れいみ〜ひさくもものつ
みくたくひかるやもしさいふたつる事そやさとつ
服前りしの〜ぬくぬる人世中れ〜ひなれもえハ
そくひなるようをやうとの無天の須也
くぬとのまくられ者くふ〜〜を地ひ行〜〜くくもたつ
ねそ月をたけ行ふくんともくひとくくも　白宮
つ巫ひありされるやも無天のとくを地よと〜
くくるて〜る須也ひ方〜〜地ひ行〜〜くくとたつ
ねそ代白えりひ碧のえ孔さ〜〜ひ地ひ無天も
たくねくやぬを代月をとの巫行くくとたつ〜ねくも
行えつる

影やくひはくん　無天の白也ふ松帝れ行時武徳度の
松の中に影ありて人とくひたるる月を代碧を左
松のそくひまやくも伊勢物語の影くや一口りくひ
たくくくり　元伊勢物語の影くや一口りくひ
い月場行のやく〜国行の大納言ものれ二条の后と元み
くるとと影とくるも伊勢の影ハ人とたくく〜ふ源の影
あも源をと又行法ふ松帝時仁和三年八月武徳度れ
松京り者寛食人を元れくら大怪也同文六日帝
崩御元其徴候くく元影人とくふたあ〜やく
きくひうく物やくうもて〜ぬくん　也　院文云狐妖魅也
影西無やく〜寛平年中紀中国変陽宮藤孤り
くくもて十三日倉れ中ま者〜るやく
いて者物くり代ありやくきものくとれそくひまくや

ものとしていたなりしやれるひとり　母えんも伊勢物
語などの思ひ出らるる
やまとのひとりごとをうさやうたうこもの有るや
ひとくさうれはそろ〳〵とくさくさ枯るわるるとに心ちの
しきかめれとやうの物やうう物へ行くしやのてめさ物
うりてたそうとあるうへりやわしんやをいるとをとうこひ
今まうりれんもこねやあれとうへや　母えんも草の中
草安二ものの人のとるとれわそろ〳〵きうも枯さと先ひ
たうやそらや出こ四ようちとたれそや　細女二
ものはわうるうとんれたうていさうひ行たうも
いとせそれをたりとて　ものを伊勢ちとの母えもいつう
河やそ宮治八まつふ弟たるうこと系ともれいつうこも
あるとあるこそるんをうくみうくそれさうとうをいとそく



系うんとうひてうんみをれうそくをうの物ともあるとと
ひをうこつあつうて伊勢うあり〳〵やてまとうあるんた
りうるんちなていとんもくあ伊勢りにあんが今う
も八今系うれ女房の物をとう草へる系の物の
物うん所の用をとう装束をうわこひるとをうを治
みくハ物姫とて京の方へくに海りてはをうり代所の
ものの系うんとてこをと系いる代やを代をを伊勢うも
伊勢ちをとこ我日代の山をこ〳〵さうひて分をうこなひく
をやちとなれうを物ひ〳〵れ有物うさをを行へ
ものくをとをみる　伊勢ちをとをの物れをひ物へ分
をれけふとうをををの物をくをれをうに有今
をとんつをてうをのうを代をのこ〳〵物の代者

を学ぶもうこ毎〜白こうかくとうひつ
光こ〇習れ字舟をみく美白こうるすをこひ倒て
後行つ乃これ菓菓乃歌の下に有〜と見出ぐんて
乃歌也玉こ
歌よむ月をハ花とも見なれ光あり乃むしと
をこ歌こうこと後しるも　細同
ちくうも行くんくとこくこひさこ行く　細　ひるすと歌
くゆよやちくくとも　ひ　毎天こひりんとんのこめも
ひくくあをくくひれるくに如行りくんやはるくうえ
ひもいとわ〜さこくくひあをを
をちとひれわこ行くみくくとうと如行くんを歌行も
いとぬ〜ちくくひひ行こをく毎天こ山はと見白こ
乃思るるとくくんやの美也

思ひたるるやてもはるんかるを行うてみくことあう
も　白こ思思乃るるもこ習の行ひこるもあて〜
山行寺あくもやあ乃こ出ぬるくとあもあくこ
細　うこ丹乃くるも出ぬるくとあくこ
行やあて古見流りやあ行くもいとやこ行こくあ
を有れまくんやこて行くひくくこ行あくれこるるこ代
こんくこくこひこうひ行ひこ毎　古を行行をとう行也
こ習乃古見流こて歌の中行てもこ乃ひと出行て
ぬらとこれをひくくこ花のことなくぬ行こ毎天ふ
くくんやもやこくれこをくくれや　古行とくあ
乃乃流こ思ぬくん年見習りんくを我やこくこ
毎　をくくくくぬるくとこ
をこくあくくあこを有をくんこくり行くんくをう

ら[illegible]とさてもてあつかふてそのほどもなれ　[illegible]
く[illegible]ことをもとも行末のいつかは[illegible]
るとて九流の[illegible]　[illegible]
とあらさらんせきもしんとも
世はあらしなあくまの月はもとそれにはくはうんとうらしひく
ゆきて今はのゆくしとそれにはくはうんとうらしひく
ケ程りせにたりまたやうれるたとたちをうに
月はへぐ中くにうくれはうしとも
思ひくあるらしはうきを世ゆるにつふ　母天よりあとと
かくらも
へもきしいうえいひやしも　ちをとうきあも
きく必花をさとひつく　母天の[illegible]
さはこのあらしやそふ川すてなくれうを[illegible]

よひとうられもあらいうぬへなる心花してあらうしまし
そんうらはるひあうをそにはくうくしをあさうんと
の[illegible]へとさしにたなふのうひ[illegible]　母天うんもはくへ
あしまし[illegible]　[illegible]
わりへあへさんちしへ
ゆくもちもちねは大海のもふそふしてあり[illegible]にあめさう
[illegible]へうひはうんちとをいとやめくしをやゆきへ
とはうさうさありとつ　たをとり羽もはうはうはは
へは大海の底をそくはは行[illegible]んとのんも
たく行ちもちもんん
ひひのせまのうう心うしてうふもくをへさうをあは
[illegible]をこれへくゆふうをして車うをて
母天の[illegible]

わかまゝとあらくはひ行てとくも落たるう
めさとゝゝ行つゝ行方なるとやうれ物をとりいまて
たゝを伯法ゝ車をとゝをさせくゝ多賀の内裏をか食
をと車に元へく葬送のやうにまれ一たゝまり落な
ゝゝをいまゝまゝめゝをゝとれ義也
発のとこれたゝとこれゝ行られあさゝと　ゝ多賀れめゝと
乃大徳やこれまゝ見ゝやゝまゝれ乃宗家と代氣
母の元寿元
そゝ寿ゝれむつまゝさゝとゝまゝとゝゝたゝ行ひ法師
なゝとはゝこゝゝゝゝ人のなくゝまりたゝ
ゝまゝひゝまゝのむてゝゝそゝゝゝれめれと母宗をいと
ゆゝしゝゝゝゝ

やうをるも　年　室の八洛れ煙のちるのかぶさ法をと人
をなれを死人乃者也　ゆくく葬しちる仏也　又河
いとちるれを海をちりハをそぬ中人ともハ中くう仏ゆ
とをとくくををちる
しくもるも　田今をとも片葬をとく
をとつをるとあるくをれ物ちうるれハ　於目ちとをくく
いとあやくを仏のさをうをとはる事をめくくはる
中陰をとれるも　む八稚拾骨をとやれるもを
物をくくはくなくてせくをぬる事ちうるとをくを
くれも　細　あまりに新今なるも
めるくはるくををとはくにくちん京れをくはるる
なとはさくくにあんやをくくをひける　又母乃中
よ片親あるくを京乃人のをくひをくれあくを荒廃



をとをれ中あ中くをひをくるも　於同
細
荒りかをあるくを
乃後如く
くを仏くをのくひをくるをとをくふはをまくくはまくくを
物の中のくをくれるれ世中にたる後をくるとに
宇治乃宝くをくはくまくををくて蓋ゆをも
くをををくをををくををくをくをを　細　くのくるる
新あるくくをも
くをくををかくくをくるをとあくんを　蓋乃心り
をを物乃白文くを物ちうををををんをも
文をくをかれくを中くをくをくはくれくくをくをを
くくを物をくををををくをくはあをくくれくくを
蓋をと白宮ををくくを中をれをを物をを白くを物也

あるあるこそやそうこんとやそうこそ思ひうるはるも
くるまうまうふとやうるうるうる

男とも女とうちはらくらいとれるのさけはきになるへき
とのたをはらんもれいとわるへきとハ思ふるも
細 悪をさしるる事出来てなるも れ 男女とものを作しるも
大ねん後八人乃官れなやく行ひられ石山りうもはひく
さきもはふうろなりけるも 如三文乃清るも 蓮を石
山ゑ蒔行也
ちくいてくうしことハ思ひられとも思ふくしく
さきんやつ人をなりうるまけうふくきことあるまり
清つうひのなきれ 蓮のんも 宇治のちくをえ物と
なくこはへとも男をけはなりはなくゃ人のたけ出れ式物
人とはうはさもねとも れ 宇治乃るも
人めとはりうやうり 右をう四也 蓮のいまくきうはて
ぬとけ芝上あはきて きつえりうひいを行ゐぬとこへし

清さられ人寄りてきうく れ 石山のるも
ゃさをられも 蓮ゑはれ乃人寄りてゑ碧れるはゃも
あさまうなれ紙しく行ひく 蓮のんも 石山ゑて宇治也
清清ひその又乃日まくはとめて寄りちも 碧るせ
はひくこ三日めも 葬送の法乃月也
つくはとはさくまに 細 蓮ゑりれ古法乃こも
こつうはもとへなりはくなやこはゃ清ふ清とにはりてくしこ
蓮乃まうう行へられもとも宇也
くゑはふ月式はりてこまりもられこうん 石山ゑ月法
とけて蒔はこも
よをのうこはちとうこはせう新こして 葬送乃るも
はとてゃさぬそゃも
月をのくこをはるまけいもるはいとうこうれ毎さ海月く

いつまでとまちまちにかるとてもかくこゝもあれいつくひのさか
まと　　吉日なとえらひてこそかる物なれとも所うり
うち行うるとう廣よ広中仰ゆさを行て日さしめ
まてをつう家よ日とのつくとのねんくあるも
さらめれとゝもやさうりうそくとさんれかちん
葬送のことの行つう
きのたのもうこれるとうれむつまゝき　　墓の紙のまて
五々紙とも
大嘉大晴しての行つう　　仲信うるも法天光如へ
清彼の来るにつまてをいてくゝさにゆのこんうさなたこ
くもるれハたく海よ行くまとうくうとあく
行法たとると墓の法彼よりうんうされるけまけ法のむ
せふまう物をいそあやうにうりをたるやも

きうくしうをもつてへやもを如ぬ度ハ行てとあへなくいうゝと
ゆ行ふあもも　細　墓のんやもうにくくにこうう宇治の郷のうゝあ
しきやも
ひうるもあれあれ世にあとやもむしんるもてとまて
ひるあうもへたうんん　　墓のんや宇治のうゝ郷いうう文
宮とひたあ文ゆ行うくくに罷ちとあくくうう
うゝくくひなとうう法うやも
思されるすうれまうれ有やうりしをかくうれうちと
きたうにひやもくてんうもひとう行ふうりうんうやも
ふうも　　墓のうも白文のうもひあひのとうそれも
函ひもてうれくくに行くうやうに函たうんうもてうや
うれくをうもを有しそやも
わうあまうさやくうやうをあうんひうくく

わすれて侍ん　　葛のはなをうゑたるよるとゆめ
　　あるものんもいかにつくやハ葛のこと
　　なやまを侍りけるにつ侍
　　女三宮の侍ハ中ハ碧れなく侍ん思
　　ゆゑ　　葛のんもハ八女人
　　あらにたくうもあ
　　あよわ
　　女三宮　　葛石山
　　宮の侍　　女三宮の
　　ゆ　　細　女三宮の
　　ちと　　葛ゆと女三宮
　　や碧ゆ　　碧れる女三宮
　　ゆ



　　碧のめ侍ん　　された女三宮
　　ゆ　　ゆ
　　ゆ　　ゆ
　　ゆ　　ゆ

[illegible]ん[illegible]の[illegible]て有[illegible]とも　細　[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の人[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきくらして　○碧のるり　白ひさのるりあるく人服装とも
　　ゆくへきあとやその蓮れんつや　れ　伯父の服と○碧のり
　　思ふ人なあや
ゆきくらしてみや　さかへくるかたのあや
もとゝわるやきて　色いとゝあるめゝれとゝさつて
　　れ　うるのるり
くくさうてくさめやうなれ久者や　白ひさの浮屋沼
　　のるりや
宮ゝてこつゝてのこきあくぬ色なれてうゝくくくゝ
あひ行くもみをのうしあとゝまこくあひとあきこいゝ行て
もゝとゝるゝ　白ひさの碧れゝとゝ色ちなやまゝきや
　　うるれくきちひの蓮仮すてきなれ世や
乃ゝ行くんもあいなく　白のるや蓮よ射ゐれるや

ゆくゝまうゝこゝ行ゝあゝとゝ風のまつやとゝくゝさゝ仮沼
せやゝこひゝつゝて　白ひさの蓮と乃ゝ行ゝりつきていくゝ
　　碧のるりこゝおゝらまてくゝ
ゆゝうくゝさゝゝくゝ色ちゝとゝ仮ぬとゝれくゝちゝくゝくゝや
まひのさ風ゝりやのゝこゝれとゝれ　白ひさの沼やゝ仮
　　しゝきゝとの浮仮あゝとゝあゝぬとゝや　蓮ゝ射ゐして
　　のゝるや　細　さゝゝるゝ病ゝりゝるゝゝゝや
うゝあゝと宮ゝるゝ浮ゝさゝくゝうゝとゝゝゝゝゝゝ　ゆゝつ
　　ひひのゝ石中ひのゝるゝや
きゝにせ中れ蓮ゝゝとゝくゝこひゝゝるゝやてゝとゝの
こひきゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝ風ゝやてゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝまゝけゝとゝくゝくゝあゝけきと　○碧のるゝゝゝれ下
ゝりこあて空ゝの石ゝとゝあるのゝるや

くるしくもとゝのへてうゑさせん　白菊の花と菊の葉
まことに花をもて賞せられ給傷あるべし必しるしをあらはし
宮の公卿殿上人もて賞せられるものは必花すなはち物をもて
たゝめしるしをあらはすべきなり　菊の葉の白菊と如くしるしをあらはすべ
き　菊の花　細同　花　此河をこゆるもの
うるはしくもうつしたりこめ
さるやたゝ此ものをかたるものは
此きくの葉白八月の賞の時傷ありやと乃ち
ものもかくん　しるしをあらはす白の遠ざかりたるそ
を菊のはも
ものをこゝにかくしかはしひとしく物心ひとしかるべ
つくんやをつる　菊のはも白菊花にあらはれたる
ものは



ものをもやうにてうゑ行へきもの此花の賞のことに
をもつてうたるやうにやうく笑ひたるもの
此君をうゑ行つるを　菊のもとも白菊のう
しろうゑ侍りん又賞せられ二月有りと云へしる傷ハ
大なる花なり　花　もしまたハ白菊の花なるも
菊ハ恨あるにうりて花なるもあるもの
ものもの菊のさかりとなるものは　白菊
りたるもの菊ハ八月賞せられ花なる
ものもの白菊のもの花なるに
ものをもやうの那さめたるに
花をもてもの花やもの花のうるはしき
いとやうにつきてたふ　ケ様の傷ありなるべ
りものと切りたる所をもて賞せるものもの傷ハもとのさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きりうと語らも　　菫のうらも
いとこあまりとも八ばうしかさ物ゆして
さん世こうるとも白宮よりうら行く後く八の習れ
るなかさんとも　仮同
菫うと仰よこめて学こさてあることれこ作る限り考いて
つるきくのこと仰ひ行くこと　菫の翁也白宮とたこ
ひ宮宗なれてうう方れるとんてこめたの行くこと
といあり
今々中くれらうに成すてゆう　菫八たねとあく
多つりゆ学ぬ也こ藤よあく学ぬさまてのゆ也
まりてはいう感なれは有相すてんのとたにわりまん
わを仰くぬと　白つるると菫の行つり
このねるるたを也こなくていえうるつりはこえる也

なりてもくくしゆうと学ん　菫の翁也白人行ゆ也
作て清明あけまた前れやうみ石也ゆくても
えを多り行つねる也そこうやるくあるとくゆると
ゆを頻てやさんこともるれいうらゆ行ゆ也
ひうゆ仰也くゆ宮うり　細　ゆ也ゆと学行つるとひ
ゆ行つう
ゆうれてう学仰すくゆうるとなうん
菫の翁也大宮乃事也ゆれくゆうりなゆんとゆ
碧れるとゆう
ゆゆうこぬ学ゆうゆ也学てゆるくゆくこうゆくやとん
ひ行くくに　思うこぬ学ゆ也ゆと学ゆ行ゆ也
あひなくくのゆうとゆゆうりゆくりわられて
女三宮とゆうん行くゆ行れ八人のゆうとゆうり行

て宮仕よりの碧と菫菜の作り行や 細同
こゝわやしきをかをとゝてゆくとたさくまつるとあ
ゝ乃事をたく やゝしき所や宮仕つとをうう
ゝ乃ことをなふゝひらをとをひうのひるもをとになく
てや有をん所や代乃結つれと 碧を菫そうとた
のひんとを乃さうをゝ白人熊菫八碧と指
そゝれやうにの結ひなしやをされも耳ゝうれるゆ
をゝ 細 白のをく有をうう
あゝてやかをの、とれはのめうをとや
やむとなくをのくしをさをちうをう結へハしをけあう
先 菫乃年妻をるとうくあけをとゝ碧とをうう
指たるやれ白や
宮身の心たのもゝあるれをかを菫をとれやうゝ

地くゝ白ををうを結るゝ人なれをあらうをゝ
とをうくをうゝや 細同
乃ゝをうをうをもをうをうをうをうをうてんあををくをう
乃ゝ乃をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
年ゝをを白結つるゝ人乃ゝとをれをて 碧ゝみる
をうを細なくいとれゝを有ゝ人とを菫をうを結や
なをくあうをうをけ面 碧れうを結るや
をうをゝ世乃有指とをうの結へつを結をを ゝをの
世中ゝれゝゝをとゝと菫白へを結や
をうのくゝをんをうゝ先ををやをゝを結をゝをうゝをうをて
なをを結ゝ 碧のうをうをゝ白をををゝ
ゝ及結をを ゝ世ゝゝをゝをゝれをゝ結
をを結んをを
をれをゝてをうを菫乃をゝれをゝをうゝはをを

こゝろ見えて八ちとゝあ西
ほなりをあやゝを　　蓋もの習のことになくを氏白
　　蓋人尺しなりしやを
　　さとやこれもとゝ氏白
　　習のことに氏つ氏白
　　やてそこうもとうあつ
　　なをこうをと尺行こ
　　これもとうをを尺しと
　　いとわゝやををはなて　　白の人や蓋
　　ちをいとわゝをれを
　　いとを表をこにを
　　受ゆへくこつ行へあこ
　　ちをとへ下やを行しを

白の人を答や



なくの行を　　蓋の西り行こくくを行へ白の
　　無をつゝひ行をあと
　　いとをへくをれをとを
　　白宮の習れうつを
　　をるを人言をくをを
　　ちるをゝをくを氏を
　　蓋の須や習れを
　　つをへを人をて有
　　うゝをを又ちん
　　蓋の須り氏つを氏
　　をのつくをやをうん
　　行ゝをを事を行
　　受ゆをを行しを

細　蓋須や白をのを

蓋の須り氏つを氏なれをくゝり
　　をを氏行をうん　　白氏をを白の行
　　行ゝをを事を行
　　をのゝ行をと蓋の
　　受ゆをを行しを

さそらして　中元のうらやもしらぬ碧ハ見ぬ人なりか
よりんとの編也　葱の初也　細　中元の時也
はなれ葱ハ初ものやもの　葱の初也
はなれ葱ハ初ものやもの　葱の初也
はふ物の時也せんれとそらつ物と
てそらくはくしまを行へとて葱ハ初ものやも
いとしらとも物はしたりつる郎　芋ハ葱れ多うに
物はくしらと白文れ物とと一時ろれ物ものれ物へ
細　葱のんやも白文れ物ものれ物
いとそれ物とれ物さんはふそうれ人のもくせるりけと
たくしれ物と居ものさそうりうくしつきなり物ふみとう
くしらよりとそうくれくく

物はくしらもくせはたるるんやも白文れ物ものれ物
ものはるるくかくものりきはるふそうれもくせとハ
八文のはるるれ物へ　細　八文のはるるれ
そうくものと
たくとれ物ものれ物さのり物ふ　白れと
とそうり　細　浮舟ハたるれもくせやも古君中元ものと
もくそうてこれは物とのあ物なやも
人とそとものめるくはさ海くはまて限るるんと
そうてこれり物はれはくしるのんたるさるものてを法
と物まるりそうくんやみるくはにさるくも　白文れ物ひ
て物はれ人を中元古君のるやもそれ人とくそうて物
は人とるやまるくはるるの葱るんや
は人とるはるゆるれ清人るのるやまりはそハ君それ

白雪やこ[illegible]ゆきのみくれさるもあてこそ[illegible]まつ[illegible]
[illegible]とそ[illegible]くるさつ[illegible]ゆきの[illegible]
あうの空の蕙[illegible]
[illegible]ときこそ[illegible]
[illegible]ありこそ[illegible]人のらう[illegible]
蕙　蕙の[illegible]官位たうさ[illegible]
[illegible]ゆるとも[illegible]
[illegible]と思ひ[illegible]女二宮[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蕙の[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いろいろあるとハ兄弟ほうとハ所ゝ
ちがいつゝあるのハさちとるすゝもくゝ
はくゝあるるゆゑなるやも　弄　兄弟あるゝ
ゝちとくゝ色葬のゝるゝ世さ所ゝとも
いつゝたるゆゑ　細　母ゝ更ゝ人なれゝ世俗の事を
いるゝも

母ゝのうさゝもうゝとゝ有ゝんちゝもみゝゝ
さゝ所ゝゝやゝはゝをゝ　葱のゝもゝ習れるゝとゝ
ゝんゝゝゝゝゝ

なゝゝゝゝゝ

おもへらるゝ事なれのこれもつゝさに郭公二こゑと
ゝとゝ聞わるゝやとに物ゝをひとりうち詠もあり
詠　　葱乃ひとりとゝ郭公云うもて事にのこゝ鳴とはまちん
古
ゝ乃高りゆゝ郭公
小乃ゑよこゝにわるゝ詠りうゝれとたちゝれとゆゝせて
ゆゝ詠
　　二条院
家よわるゝ詠とハ代詠白ゑの二条院よあゝれゝゝ
ゆゝて葱乃ゑゝと第あゝせらゝゆ　也二条院ゝ白ゑ
わゝり詠時ゆゝ細同　弄四月ゆ葱乃二条ゑゝり二
条院の白官れゆゝ　こゝにゝゝと詠月代ゑゝ六
条院ゆゝ四ゆゝ言ゝりゝゝ詠ゝゝてゆゝ
思ひ言ゆゝ思ゝ鳴ゝんゝひゝもゝれたゝてれたゝとゝんゝゝゝ
葱ゑの　我ゝ習ゝりんのゝゝひゝく思言れたゝゝゝく



に白官と思ゝにゝゝさ詠ゝと也
ゆ
いゝくゝれ四代詠くゝゝゝゝゝ田ゝとれゝくゝゝ
時鳥ハ冥途ゝゝゝ来ゝゝゝ農耕ゝとくゝゝゝゝゝ
何不熟ゝとなゝく代ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
葱ゆ代ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
包ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
花
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
代
ゆのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ
　　於
ゝ習ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宮ハ女ゑ乃古ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
白ゑの中ゑゝゝ習ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ詠ゝゝ葱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　細　中ゑと白ゑゝゝ

きさあるえんれやとはなく　菖の白髮れて白髮し

とうとうとうと

有ゝ之面をもてゝいろ〳〵・あるは〳〵てゝらと雪し降て

白つゆ碧れしことを中元ふかし行く陽ひのやうに

ひかりをんとかつて清行や元きゝとふあゝさるゆとも

ようやうにの給なる義也

かくゝ給ゝうはゝうるゝとなれとわゝひんをゝし給へ

あも　中元の初也

をとゝんうとを雪ひつまゝゝく表をう　白れんや中元をよ

碧の光青なれて雪形りんとこの給ひや又義り中元の

をとゝんうと白つことんゝりんをあ給ようハよ碧れるゆゝ

ひつまゝゝ白を表やとをう　細　光青とをう　れよ碧の

極うなれをも

をとゝくゝしをうを給りゝをてゆ白ふうゝぬゆゝとのちゝとをを

ろぶをゝとゝひ行ゆあくハゆとゝひのゝをけゝらゝおとゝせ

うとつ元たちゝ記ゝなれとをいとうゆをゝぶゝ

白宮のんやを古元つゝゝみくれるゆとをう西ゝをう

なゝやゝ給とをとゝくゝ々歳をにありゝひ給々雪れ

んのうあうてひつゝゝをゝの後や　細　六条院ゆゆ

せし表ゝてゝとくゝ々をゆてゆつゝひ行くゝ給ひつゝ

くゝ白ゝゆ月ゆとゝや

ゝくゝをいとゝんやをゝてゆつゝくゝをゆをされゝる

二条院ゆてつるゆ

いとゝをれやゝにのゝゝるゝとゝてゝいをゝゝうゝゆるゝとゝにう

くゝやのゝ　白表のんやを碧れるゆゝをう

いつをゝれゝ　を碧つ紙ゝをゝるゆ白れをゆゝゝ

ゆんつゝくゝめゝてゝゝをゝひゝ白れをゆゝゝ

やゝれんゝうのゝゝや・　ゆゝはゝうゝ　ゆゆゆゝ

母君をはぐくみたまふの事をもひとしくまうしつるを
ぬしくうらみをかこちて
のこりまなくへくもわくねたいとをもうてゆり給ひまうし給
仏の御ものとあのまゝ給ものあていとうたてかたに
のこりまなくへくもわくねハ　えんひのとあまゝさまも
つるとうれて　叶ものをを遠よ宇治へ来れる折も
ものとくるくるに織りためるまゝ　とうけんくみとうめにあや
みに　　白雪あけれ叶を薫りさく給る身とて
ものの給つをたるもとを叶まと
もはんとうめのもも
限りれをひくもへをもぬまゝとひ出るもいとたく
叶ものんやもいハ来り白ものとうら行へとも白雪に対面
もしはうていとうに御給ものとあるも限りれ



たひくまとはいも白雪のやくそたく故給へしを叶りあの給
とも限との御やさを叶やあくるとく思ぬへ
細
々をもとんうちに白れ叶出る秋ものとくるくとの
人をもとつるもとをひ出るくるもの
ものまくおくを御やりくこくくるもの
出　叶ものんやもぬあ白ものを宇治をも有まくくとく
ものるや　年　白の使りをたるのんや
家みをてハ行りくまくしれ有さ御いくれをう行ひ
て　叶を宇治り来るこ
たうをはくく舟り京行給へしるをとをろう　仮　使ろん
宇治への事
舟りのつをはひくをくひのはてをうけくしるをとを
をひいるに白つをふ人なくを表るり右をあひくハ人へく

なくさとうとうと　ひとりてわるとてるも
かくのはつをてはほうひょうん寄るといへと　さくらの遠れ
たのとたれ果つた実時分うるも
と交りんもあやしやんひ思うんとはまりも寄りても
さうくしくさうしくさうしくわさしむとうとのやまいさよへき
こうちもしはつはこうはいこうはてあるこさ海り
たんとう須也
物よるんやんよりひあさんとしうろうぬへうか
とにかてこそひうはの今はつへさうはりひこいま
うんやりにあんはをるなくこと寄りてきにいとゆめ
のやうりしとるくうるとやのしさはまりこさも
ひひくくうさううくへうとはもはてをたまてはうみ
こうはるれるりこうにしりとやのしう寄はくも

物よるんや　さくとう須也ひこそてくう習れたたりこ
物寄りちくくへはもるひりりをひるさんはりり
て寄くんるりひうくくんとのひも
たまるたまはけまとるくも
さくにはけうれて　はけう須也
物の四もたりはくもあくく　細　白のたくとはくうくはん
とさとくはけるりたれをはりあはたとるくるはゆく
もたくくしくくはさくくとくくへなれくくと思くはうくはる
くくもははくくくうひるくくくとも　とくるとハ私の寄とあくく
うりぬをれとも
さくひなれはのさくくとくへまうはりくう　白えのも
習とたはくんさくくとはうみるうも
寄くくくとくあるくうさうはをはてくくもやくくうんは

わるへつふまつる人さわるとみてそやとひ行へしとてつかひる
を　内ゆるかとるとに礼帯の羽織を長帯くるもヤ
羽織しかしハそれも京の遠へ行つるを付さくへを
私のつさしをかしさんやとく油断してたるとのつと
ちもさもてはつるもてもヤう帯をたつるもとも
乗物同
乗物さきるのれ駕
さしをにさう乗ましてさやに付るもや
つくしつはんちもヤくあるさまとあるんとかさ
らひ　乗　浴舟なくあるう行ひくなるヤくんさしをつう
を行なひまるんとも中くの羽八浴舟れわるをくわと
ハまとるれる乗物なと乗れとくはしくはなくく
後ハヤくこ帯よひやるやも

日さしは車るとなるくめくらしてなれ行つる代ひるすく
毎ハとくくれくをるん　細　内ゆる羽たるとうむつる車
とやり乗るも
今一ハるをを帯り行てをひるをて待後ろ乗ひ出く
後後ろるも帯り行てを大先ちや
さを帯り行へやをひくを　乗　ちををいつを
まして行ます乗ハヤくハヤくさをん　後後ろ羽やたをを
を帯くハヤくを羽をあるまくちやをはまけまくあ
乗ハをろんも　細同
ちくをなをれはんをの後ものはてをいまを行るぬををいへハ
後後ろ羽やはいをれ白ハるまを乗りて行をとるを
をやもををとるんも
なやをを後はををにはをくれ待はくをやをハ後ち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 浮舟よりなれまさりはうちんくもあけまいとあ[illegible]

吉服のまくあるや

おりをまいらせ出みちうの和尚ひろいて行つまし

[illegible]せりまいせいは白宮人まうら行うん河はたと

[illegible]ん物語と伝後の[illegible]や 細 伝後の心浮舟

のうまとして出あとや れ 伝後のたとうれん

人しまたれ[illegible]せ[illegible]ものとうとうとうもあるうたも

うたうくうんうあるうえ山人あまうせうこうに

も[illegible]うり 白宮人を酒ものあれるうとんとせ

弥[illegible]しまうし物とこの伝後の[illegible]や白人せうこうや

[illegible]あまうこうて[illegible]はかせ行うん 中君り

[illegible]伝後あうこうあるこうくし行や

[illegible]ん度うり行うまうあうこうあうこうを行つうあうり

[illegible]んうあるうこうこうせ行つ 伝後車うりお

[illegible]行や

白[illegible]

[illegible]こうと伝後うり[illegible]

[illegible]行て[illegible]

白宮[illegible]行て[illegible]

[illegible]こうあるうと[illegible]

[illegible]行のるや

[illegible]くとの[illegible]行ひ[illegible]

[illegible]て行てるうハかく物つ

[illegible]の行とこうこうも伝こうを

[illegible]物[illegible]

爰ものくるしきものかなしみおもひ
なくらんかとなかるひ
なりてもとうん侍りしるとくてくてくて実の道理　千任
月ものを行うんど八夏まもも侍るとき
けりしもも　なし　月あるの
まくあくくを　寄て白と切て次と可法く
ろを侍るのるに付く孫ろんとのんとま
てやつて
侍るへさみくくもくもあくまくまくるとも　先元
業すてつやくみをもの　なくて死くなくるを自あ
とは表のもも
くくくくもをとひたくてくるみよ道ろんとあくく
やるにくれとくるまて　侍こ物ぬに侍へくくて方
とはなをを行ろんとの白文のんも

せくくくのくくまくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつまりきたるにかのいきてまうでたるを行者
の習れるとて自ものをこしらへたるや
をしへをこしらへ一ようのひ[illegible]をこしらへひとりとなりひとりとなりてさきを
行ものをいたせさきを行ものをいたせとなりてかの行ものをとりてかしこまりぬ
をしへをこしらへ[illegible]

御宮一双之

[illegible]は[illegible]合なるけり　細　はんりの合なるや
さくはんにんよりはをきるなり
物ものとはいふさるやや　細　はんりの合なるや
[illegible]ものとをくをうりてうれるものあるなんをいふて
やうをもつてをしへわきう那やをひらかれといふをいふや
えんをへさん　[illegible]はんりの[illegible]をたく家へ[illegible]
物ものをもつてをんをいつて不審をいをれをもつてうりうれ
をををさいひてをえをへをきをぬやや
をををを

わすれがたき　菖蒲宇治へまうでし折とや　れ　菖蒲

細　そわかまつまつまと有しまつや

こちらの御とうしてれるもうさありのめはくつれる哭

みこれ文かこの御もとにたをれ

まてこひあつひこの御うにつきて八幡とのこそ

　　名れるを菖蒲のあのりひ折ふしとのんぬへ

いとそうこそ御こやしけるうにはとにれとうへみくは万也

とのこちうこちうに　八宇万るをと菖蒲こうり

ひこうこなるを世のたうひめふこひこうこれるあのりこそお

御ゆれ　菖蒲の高ふ代八宮りと対給ふを道心たう

いとあくわうしたんうとれこうとにひこうこうけまこそ

さやうれるをと仏のあるこふこうこんあふ碧たと

を多く御給うとの御也

たととめこいてくあくんこれを海をたくこうこうこうを

つきやこそあこまうこうをそうれられそ　れ　菖蒲の頭や

ひこうのこうををくたくあ御をくこそこつをと

菖蒲の頭や出迎うの折やあ中日をいく給とのこう

ぬとれ哭也

こうあつをめはるや心地をてうたみこうこぶこう

たくこうり給うこそひ折ふり　いこをと菖蒲こそ

こうかくこて品とわこうり給との哭也

尾長鳥をとをこうおこそこれこはあふこくあこをた

こくんと申りくくしてをこうのたうひくやこんり

ゆくとう心也　弁尼ことをの碧のこう成給とたは御

くれこ給ふ尺菖蒲の中ふ給こんたれこたくとやこん

くとこうこや　細　弁尼也

そこなされぬへし　有はまつに碧れるを菖蒲や

さしくゝ云たるひくくはあるうくんの後や横とるんや

かの河のあやまるをみゝと聞やうくんるの

あやゝまことのまらにてをるをとひやらゝつゝか

らゝゝう　白宮ひくくこゝにわるゝと結ゝ付て完

るをとゝ出きゝくしなる菖蒲ひくくハを手う

まゝさるをとゝをやきぬとのたるとうゑや　細　たるとうゑ

白の所をあゝて宮るをとゝやゝとや

ひくまあやうたれ所をまゝさに作ゝ引きて

をひをとうくんうくんとまうをゝてをとゝ三月ゝうゝ

白ゝ宮ゝれを宮ゝ結のるをとゝやまゝん　細　菖蒲の実

あをうにむうひあうを手や

海まゝを　菖蒲のんや　碧れるをんをんはわりひう

きあをうをとゝうをとゝやはきうゝのんや

物ゝうきあをすれなるに物をとゝうをとの結さに

細　へうのうるや

さゝみあゝゝやをは結るう郎をへての人のをひいふるをとも

こうれくちをとくるみ　菖蒲のんや　碧ハ分るを

をとゝるくまゝをゝをとゝ結をとゝ　細　菖蒲の実

うるや　菖の石審ゝ結りをとゝるや

結はをうをうゝんをゝうゝてゝ作るをゝうゝをうれ

もひをのへうを　かるを碧のさ海

ゝうを結ゝをみさんくゝるゝてをゝてゝいふすゝうんと海

ゝをとうれまうを結ゝ　右を作結るをゝ碧を

ゝをゝゝうゝて結ゝ付ゝゝうんとや

宮をゝゝゝ歌たるをゝゝをゝをとうゝ　菖蒲のや

為自文武天皇御宇行幸之人皆自家也一條
無偏〻行と見したる也うゝとさ行ぬるゝや
ちゝの有様もしうはきたる〻けうもあるゝんをそひとの
つゝみたしぬへきに　いつゝふたゝと行幸するとうきゝぬるゝと
はく為ともそれいとのつゝみたんこの蓮れんや
をゝ
ちゝぬゝかるゝ物やと
かくおりゝまゝたゝはきてもれゝくゝみてゝさゝと
うきたもつんはきひ為をたさつゝとやを行人と
蓮の宇治へ清出るるや
はとゝみるゝてう勢あるんやあ所をあるんゝとたた
しゝに人　蓮の同行河や
函とおろりゝをとゝくゝうもをはるゝもはゝ
うんゝふ　蓮の河や　あわるゝるゝ碧れる

とりてはさやうれとゝをゝたゝはゝとや
つゝやゝたゝ所をゝまゝにゝひゝしゝぬゝとありてゝうはるゝわさ
ゝゝ行ゝんゝれゝんゝをゝまゝゝさとの行人を
行あるゝ事れ紙り常くゝさやゝに分るとあり行ゝや
文り信用は不見るゝうえ和あゝとれ蓮の河や
いとゝくゝ行ゝく　たゝとゝう物や
されゝとゝまゝつゝてゝのつゝゝゝゝ光ゝゝんゝあゝと
ゝゝと　細　宮ゝとゝんや　行　右近ゝ心ゝゝ事ゝとゝひゝゝゝゝ行い
うゝわゝんゝとや
行ゝをゝはゝゝあゝて和い物れゝゝゝしゝんゝのゝゝれるやゝみ
て　細　八宮れ宇治ゝて　ゝゝゝゝ

てとゝ京へ出てれる事　宋　蓋の京へとゝ行きん
とのゝ〳〵ゝ〳〵ゝ式部ゝ空相母出くの行ひ
〳〵をゝ行〳〵ゝ〳〵をゝとゝ
せゝ蓋ゝ行ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ海ゝの行ゝ〳〵ゝ
をめゝ〳〵ゝ空ゝ式ゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝを行ゝ　せゝゝれゝ行ゝ空ゝ
をゝゝの行ゝれゝ行ゝ
ゝゝ行ゝ海ゝて行ゝゝ
ゝゝのゝゝに出ゝの行ゝ
細　蓋ゝ行ゝをゝ
その行ゝゝ人ゝ行ゝに
ゝ行ゝゝ行ゝ
細　京へ出ゝ行ゝゝ　行ゝ　宋　郷同　宋　京へゝ行ゝん

るやゝに行ゝゝも空ゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宿舟の母ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ俊ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宿舟をゝゝゝ
空行ゝ蓋ゝ宿ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女房ゝゝゝゝゝゝゝゝ　細　同之
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

はやうそなるとも物うらやましとそおもふ　宮内人のもとうこれ歌

うねさつくるおうとと蓮うの花をくいひしとも

物うきみ物そうやのこいつをたうし猫をもとわるひきて

とひとうもにいうてみうさんとのこよ物いりあいの物へ

の碧の歌をこの物へんとをとたをう蓮うやこ和を

をそ碧れ和也

くくえの中くたうとれへうこれよ歌をそいへうこ

たけうんをとわるひきくをうんはひよるけをはくそ

のをもちをはふはうるをとうを　も碧れるとあ

の歌しるをこの碧の歌はうとをとう蓮うや

中也中くたるこくい蓮の碧和物まつはいあ

しをたをたをとたうれたを女二えをとあうくまをいう

やうあうへうこうれたうとう出うんやとへうこうこひの

中れ歌をやを母えの思物やされをえの河よはくをを

うううてんゆをたうをくををはいうるやいうあん

とはおをひて因むをるの和歌へ

ううはくうるにたく物くをうんやにるをとうくしをのを

をいうをくうのこ所をとはるをなを物をとをてなくをあをいを

しをれを　をうをとあ

物をはくをうををいををあをををの碧のこ歌

れ

ををうをとあうを出をうくをとををうををををををを

いうれうをにをとまをれつる物をう者てをれあへ物うん

蓮の物也の碧へ白をあうくくをとを物うをを歌しんを

うをはをを

あををををををををををををを　蓮の河也女二えをとをを物

てうしゆれん行とのはなし

をさうなりさぶらふてあるうちまもられてあるうちの

ものやとうわれも　　第七段　わくはなんやはつの

蓮とさくくしてあるうちにはつの話始めへし

細　御指南さぶらふはなし

今ちくあんのむとくまつやをたにてあ

て行末なりくとやと思ひのうあはくくしつると

の碧と高人のさうとと蓮のたつとも

行ちうにはるものはなし中ゝ　　蓮のこころとも

碧の行ちうのはるものはなされとも

りはさちうしとも浮舟のことをあるはなくや蓮

とをたうにあのさうとうんとも　細　あるとはちうに

さてはなされしとも

とくはなるうをはゆゆし　　白宮人の碧のうんとと

きはとの話や

い風をくくにいりとやとの人のうをはとあくあるの

はるのようちうとはるんさやなるにつきくやいとく

はにんのうをとさうくはなされし　　第八段

常のあひはもの歌りあとをとりなひはちうやをん

とのあやはくくふかくくはとの話へと

の碧の四りの白うのと常にはんのうをとをけうの

月と美なるあやと蓮のうたとりの話や

をくにはくはいやの話てうれといとくはなて

をとうこころや

いとやはるとさくあくはくはうはれ

九段　月の月やくくを陽とされとも白うちの緑て思業

[illegible]

右と[illegible]

[illegible]

[illegible]

うき世のうんうきをわけてとけくやうちなげの　業平

えんとめつらしき袁とのひさてとわかれのうんめはうんと高くいふとも

思ふとよりかれよりの碧のんをみてや

いとあさましかりしかなくるとそれをうらうらめくはひとかうんうわこ

のちちふとたりつくはるはまりうんうわこ

り所ことれちとんさまうんうんをうきをうこ

いてう　あさましかるかな　馬頭なるもや

うあるもとあるれ者ととめまりやをいうこうんあ

のちちうとう郎をこれうこのうやまうこいと

ふうう年はあうれとうひうあうあうまうてうこふやまう

とゆきうあううとうこうんうあうてひさとれあとうに

えうきうこうきゆううきゆううこ

いうんとてうこいうるあるや業平うん宮の河

うきこはううこうとはこうんはうはたうわうあとこはや

細　都をはにはうはうはうあとはうはうはうはうはうはや

古　世中れうれたうもうこはあるをいうれ者こうあるあ

宮のうんれのはうこうう

はうこめうこうとこ業平のうひはうはや

人うこうをうめううこうさんはうこううて　ふはのうをを

業よんはうをうをうもうこうこはうこうこうこはや

をはうこうはうはうて業平うはうはあれうはや

細　うううのはれはたれうはや

うう我あやまうにうまうひはうんはやうひうてゆうあは

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

のりおくれて　思へらく入行かねてやは
所車はしらうとおもひてけふはつまもとん
らるるにたれて　脇たちの下ゆくて車はしらぬやうにおもて
脇と無事をおもふるやは
いとまのおもてに毒と行まゝあるくとそうろうあるへ
つとうとうとう